

横浜市立万騎が原中学校 学校だより



桐の花

令和5年

12月22日

校長 綿貫 芳人

横浜市旭区万騎が原 31 TEL 045-391-5514 FAX 045-391-5537

URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/makigahara/index.cfm>

今年もお世話になりました

校長 綿貫 芳人

今年も残すところわずかとなりました。この時期になると、「1年って早いなあ」という言葉が毎年のように出ます。国内の主な出来事を振り返ってみると、1月の箱根駅伝での駒大優勝から始まり、侍ジャパン世界一、新型コロナ「5類」へ移行、藤井聡太最年少名人に、男子バスケット日本代表48年ぶりの自力でのオリンピック出場、阪神・オリックス59年ぶりの関西対決など、日本を明るく照らしてくれるようなニュースがありました。他方で、世界に目を向けると、間もなく2年となるウクライナ侵攻やイスラエルとハマスの紛争についての報道が流れると目を背けたくなる映像に心が痛みます。この時間にも、罪のない人々が命を落としていく現実があることに、心をはせなくてはいけないと感じています。

さて、中学校では3年生が自らの進路に向けて正念場を迎えようとしています。私は、12月に入り、私立の推薦入試を受験する生徒達と面接を行いました。その中で印象的だったことをお伝えします。多くの生徒に、今まで大変だったこと(辞めたくなったこと、困難だったこと)と併せて、どうやってそれを乗り越えたのか、という質問をしてみました。すると、たいていの生徒は、一度は、続けていることを辞めたいとか、嫌になったという経験がありました。そのときそれを乗り越えることができた理由として、友人に相談をした、親が応援してくれた、先生に励まされたといった答えが返ってきました。

ある生徒は、こんな話をしてくれました。部員の間で意見がバラバラになり、目標が一つに定まらなかったとき、部活動を辞めたいと思ったそうです。しかし、その生徒がとった問題解決の方法は、みんなに意見を聞くために話し合いを持ったそうです。一人ひとりの意見を聞いてみると、高い目標を持っている生徒、普通に取り組みたい生徒、その他の考えを持っている生徒がいることがわかり、それをお互いが理解することにより、チームが前に進むことができたそうです。チームメイトの大切さを実感した出来事だと思います。

私は、生徒達との面接を通して、好きなことをやっても誰でも壁にぶつかることがあるということ、そしてそれを乗り越えるためには周囲の人たちの力が必要であるということに、改めて気づきました。また、このことを生徒たちが経験として実感し、言語化できていることに嬉しさとたくましさを感じました。私が面接をしたのは全校生徒の一部ですが、多くの生徒に大変だったことを乗り越えたオリジナルの「ストーリー」があるのかもしれませんが、人によって、大変だったことの大きさや内容は違うと思いますが、大切な経験となることでしょう。経験は次へも活かされるからです。

今年を振り返って、私もたくさんの周囲の人達(地域の皆様、保護者の皆様、生徒の皆さん、教職員)に支えられ、「ストーリー」が積み上げられたことがわかります。この場をお借りして改めて感謝を申し上げます。また、2024年が皆様にとって素晴らしい年になることを心よりお祈り申し上げます。